

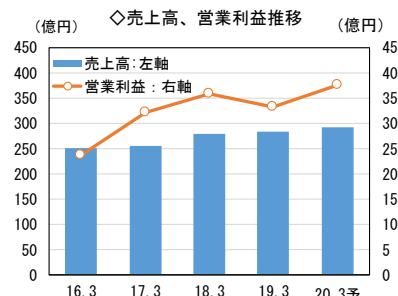
企業ニュース レオン自動機

(東証1部：6272) <https://www.rheon.com>

作成者：奥村義弘

食品製造機械のパイオニア

1963年創立。お饅頭やクロワッサンの自動成形機を手掛ける企業として知られている。社名「レオン」は、粘性や弾性の流動を解明する科学であるレオロジー（流動学）に由来する。レオロジカル・エンジニアリングとは、食品の口当たりや香りを秘めたデリケートな天然の「おいしさ」の源、「粘性」と「弾性」の条件を巧みに位置転換して成形する、食品の応用工学である。当社は包あん機、製パン機といった単体機以外にも製菓ラインなど各種システム、パン・菓子・天然酵母パン種の製造販売も手掛ける。19.3期の売上高構成比は、食品加工機械製造販売事業74%、食品製造販売事業26%。同地域別売上高構成比は、日本47%、北米・南米31%、ヨーロッパ12%、アジア・オセアニア10%。



(出所)レオン自動機公表資料よりCAM作成

20.3期は2桁増益を計画

19.3期の連結業績は売上高が284億円、前期比2%増、営業利益が33億円、同7%減。食品加工機械製造事業は、国内では省人・省力化ニーズから大型ラインや小型のパン生地分割機等の販売が好調。米州ではエスニックやアジアンフード向け包あん機、アジアでは、中華まんや月餅、ミニパン等で使用する包あん機、ヨーロッパではビスケットやクッキーなどの生産用大型ラインの販売が好調。損益面では、増収効果や原価率改善効果はあったが、食品販売製造業で海外子会社の販売先倒産に伴う貸倒損失の計上5.5億円が響き減益となった。

20.3期の会社計画は、売上高が292億円、前期比3%増、営業利益が38億円、同13%増。食品加工機械製造事業については、国内は大型案件が少なく減収の計画だが、省人・省力化ニーズは根強い。海外では各地域で増収を計画するが、特にアジアの自動化ラインのニーズが高いとみる。食品製造販売事業は19.3期にあった貸倒損失の影響がなくなり、収益改善を見込む。

中計の最終年度23.3期に売上高330億円、営業利益率11%以上、配当性向30%との目標を掲げる。設備投資では、19年9月より新社屋の着工、20年4月稼働予定で新基幹システムの導入を計画する。コスト増要因は海外販路の拡大やモジュール設計の推進など生産性の改善で補う。

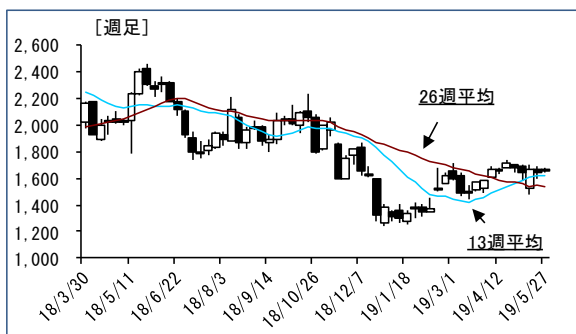
【株価動向・投資判断】

アジアを中心とする自動化ニーズに応える企業として中長期視点から関心を集めよう。

<6272 レオン 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	27,912 (10)	3,596 (12)	3,710 (11)	2,689 (26)	100.5	30.00
19.3	28,432 (2)	3,332 (▲ 7)	3,506 (▲ 5)	2,472 (▲ 8)	92.3	28.00
20.3 予	29,230 (3)	3,750 (13)	3,820 (9)	2,670 (8)	99.7	30.00



【主要株価指標】 (売買単位：100株)	
株価 (2019/5/27)	1,672 円
年初来高値 (高値日)	1,732 円 (19/4/18)
同 安値 (安値日)	1,257 円 (19/1/15)
予想 P E R (20.3 予)	16.8 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	889.3 円
P B R	1.88 倍
予想配当利回り	1.79 %
(1株当たり配当金30.00円)	
R O E (19.3)	10.7 %
発行済み株式数	2,839 万株